

# ICT活用 持続可能な町へ

## 日南町×鳥取大学×ソフトバンク

ソフトバンクと鳥取大、日南町の3者は昨年8月、情報通信技術（ICT）を活用し、同町の施策を推進する産学官連携協定を締結した。現在「教育」「保育」「産業」の3分野で、課題解決に向けた共同プロジェクトを進めている。遠隔高齢化が進む山間地域で始まった先進的な取り組みは、自治体の地域のモデルケースとなる可能性もあり、期待が膨らんでいる。連携の背景、進行中の3つのプロジェクトを関係者の声とともに紹介する。



日南町長（左）と鳥取大学学長（中）、ソフトバンク株式会社代表取締役社長（右）が協定を記念して記念撮影。背景にはSDGs推進に関するポスターが掲示されている。

### 児童が新しい体験

日南小（同町置）では、ソフトバンクロボティクスの人型ロボット「ペッパー」を導入。教育現場に活用したアプリが多数インストールされている。既にプログラミング学習を体験しており、英語、算数、防災教育も可能。授業以外にも、朝は空園で児童を迎える。コロナ禍で行事が減った児童に新しい体験をプレゼントしている。



「ペッパー」とふれあう日南小の児童たち。

### 「ペッパー」入学

教育現場に対応

人と関わる楽しさ体験を  
伊田典徳教育長

もっと動かしたい  
日南小3年 小谷風雅君(9) =日南町置

「ペッパーが学校に来て、みんながあいさつするようになりました。プログラミングの授業は楽しかったです。『僕の名前はペッパーです』と自己紹介させました。次はしゃべったりおしゃべりしたりするだけでもいいかなって思っています」

### ショートタイムワークプロジェクト 人材有効活用を期待

日南らしい働き方  
鳥取大農学部 木原奈穂子講師

多様な人の活躍環境  
ソフトバンクCSR部 横溝知美さん

眠れる人材掘り起こす  
ソフトバンクCSR部 宮本明子さん

「多くの農村は深刻な人材不足問題を抱えています。『日本農業の維持が困難になっていく』という状況で、日南町は、農業を軸とした人材不足を解決する取り組みを進めています。シニア世代や子育て世代の女性層に目を向け、多様な人が活躍できる環境づくりを目指しています」

「『ショートタイムワーク制度』のノウハウで、日南町の社会課題を解決できるようなプロジェクトを進めています。シニア世代や子育て世代の女性層に目を向け、多様な人が活躍できる環境づくりを目指しています」

「『ショートタイムワーク制度』のノウハウで、日南町の社会課題を解決できるようなプロジェクトを進めています。シニア世代や子育て世代の女性層に目を向け、多様な人が活躍できる環境づくりを目指しています」

### 連絡帳や「園だより」データ化 **ハグノート** 負担軽減 働き方改善



タブレットで「ハグノート」を開き、連絡帳を編集する保育士

### □にちなん保育園 □

分園を含め3園で構成するにちなん保育園（同町置）は、保育職場での時間外労働が課題。昨年10月からソフトバンク子会社「ハグノート」のクラウド子育て支援システム「ハグノート」を試験導入し、手書きだった連絡帳や「園だより」をデータ化。保護者はスマートフォンを使ってクラウド上で確認でき、保育士は保護者の既読状況を一目で確認できる。大幅な事務作業軽減で働き方の改善につながった。来年度に本格導入する見込み。



糸田川啓さん(37) =日南町萩原  
「農業期の従業員確保にいつも苦労している。この仕組みには期待しています。私たち事業者もこのプロジェクトに関わることによって、期待が得られると思います」

主任保育士 谷野義典さん(40)  
「ハグノート導入前は昼休み（園児と向き合う時間）が短縮されていたが、今は15分程度確保されています。運動会などの準備も保護者に連絡してしまいましたが、今は一斉連絡して、既読が付いたら保育士にだけ電話すれば済みます。園児と向き合う時間も増え、残業も減りました」

長女と次女が通う 西村徹さん(40) =日南町萩原  
「夫婦で『ハグノート』をインストールしている。夕方5時から6時までは、子どもを預かる時間を見ても、『日南町にお遊ばししたんだ』と確認しています。急にお風呂が必要になったりしたら、緊急連絡機能で早く知れるのはありがたいですね」